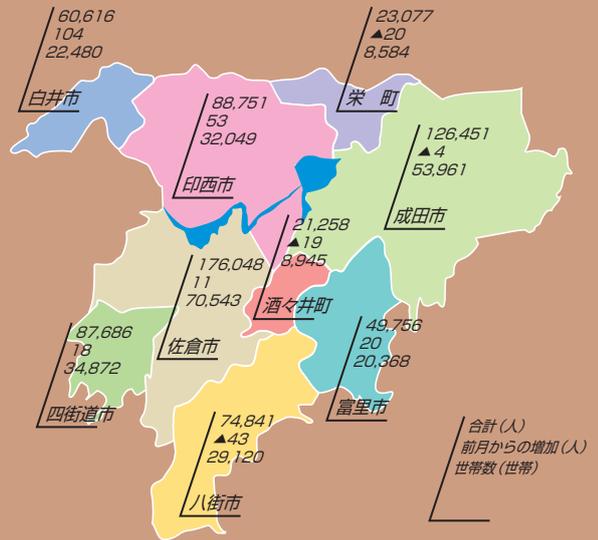


広報

いんば 広域

2010年秋号 No.91



印旛郡市合計708,484人 280,922世帯
(住民基本台帳調・平成22年7月末日現在)
毎月の人口は、ホームページに掲載しています。

【第1回印旛郡市職員採用共同試験受験状況】

7月25日(日)の第1回印旛郡市職員採用共同試験では、応募者総数2,428名に対し1,699名が受験しました。厳しい就職状況と団体の募集人数の拡大などの要因が重なった為か、昨年度の応募者1,935名より更に493名、応募者が増加しました。

なお、第2回印旛郡市職員採用共同試験(9月19日(日)実施)の状況は、当組合ホームページ(<http://www.f-kouiki.com>)又は下記の参加団体のホームページでご覧下さい。

参加団体	職種	行政上級	土木上級	建築上級	電気上級	機械上級	計
成田市	募集人数	20名程度	若干名				
	応募者数	726	32				758
	受験者数	496	21				517
佐倉市	募集人数	30名程度	2名	1名			
	応募者数	1,022	33	12			1,067
	受験者数	697	17	9			723
四街道市	募集人数	若干名		若干名			
	応募者数	110		15			125
	受験者数	85		10			95
八街市	募集人数	6名					
	応募者数	70					70
	受験者数	59					59
印西市	募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
	応募者数	95	23	1	24	14	157
	受験者数	72	18	1	20	7	118
白井市	募集人数	6名		2名			
	応募者数	154		5			159
	受験者数	105		4			109
富里市	募集人数	若干名					
	応募者数	72					72
	受験者数	59					59
栄町	募集人数	若干名					
	応募者数	20					20
	受験者数	19					19
合計	募集人数						
	応募者数	2,269	88	33	24	14	2,428
	受験者数	1,592	56	24	20	7	1,699
受験率(職種別)		70.2%	63.6%	72.7%	83.3%	50.0%	70.0%

【第2回印旛郡市職員採用共同試験参加団体】

成田市・佐倉市・四街道市・八街市・印西市・白井市・富里市・栄町・印旛衛生施設管理組合・佐倉市八街市酒々井町消防組合・印西地区消防組合

知ってほしい水の貴重さ・大切さ

－水の大使2010－

みなさんが普段なにげなく使っている水はどこから流れてくるか知っていますか？

印旛郡市内（8市町1企業団）は、川と地下からの水を使っています。今後、必要とされる水を確保するために、ハッ場ダム建設が進められています。

ハッ場ダムは、利根川の上流にあたる群馬県吾妻郡長野原町に位置しており、ダムを建設するには、多くの家屋や農地などといった生活の場が水没することから、そこに住む人々の理解と協力が欠かせません。

千葉県上下流交流事業実行委員会は、平成4年から毎年公募で集めた千葉県内の小学4年生から6年生までの子どもたちを「水の大使」として長野原町立第一小学校の子どもたちとの交流事業を行っています。

今年も上下流交流事業『水の大使2010』が、8月5日から7日までの2泊3日で行われ、水の大使として選ばれた子どもたちと保護者19組38名が参加しました。そのうち、印旛郡市からの参加は2組4名でありました。それでは、その活動を紹介します。



JR川原湯温泉駅前

1日目【現場を覗いてみよう】

参加者とスタッフを乗せた大型バスは、長野原町に向けて千葉駅前から出発。平日にも拘らず、夏休みの影響が首都高速、東京外環は渋滞。予定よりも1時間半遅れてJR川原湯温泉駅前に到着。そこから徒歩にて、吾妻渓谷をハイキング。吾妻川に沿って約2.5キロの道のりは、木々に囲まれ脇からはいくつもの沢が流れる。遊歩道は前日に降った雨でぬかるみ、アップダウンがあり決して楽なコースではない。ゴールは吾妻渓谷の鹿飛橋まであり、それぞれが声を掛け合い参加者が全員無事に到着。渋滞の影響によりハッ場ダムの説明が残

念ながら省かれてしまったが、新たに整備された町道をぬけ、川原湯温泉の「ムササビの宿」として有名な宿に到着。惜しくも自然のムササビを見ることができなかったが、はく製や写真を目の前に参加者は驚きを隠せない様子。宿に近い共同浴場「王湯」へ入浴し、夕食。再び外出し、温泉が湧く新源泉で温泉たまごづくり。モップのような棒の先に吊した竹籠に卵を入れて源泉に漬け、約20分で温泉たまごができあがる。宿に持ち帰り、生でもなく固まるでもなくトロトロした温泉たまごを食べた。初日が終わり、就寝。



吾妻渓谷

2日目【現地の方々と交流】

朝食後、長野原町立第一小学校に向かう。第一小学校の子どもたちと水の大使たちの初対面。双方やや緊張した様子。体育館で開会式を行い、準備体操、自己紹介ゲーム、手押し相撲などでやや距離が縮まり会話をする。昼食になった頃には、友だちの輪がひろがり仲良くカレーライスを食べる。早く食べ終えた子どもたちは、声を掛け合いグラウンドに飛び出し一輪車、竹馬、キャッチボール、サッカーとそれぞれが遊び始める。続いて、子どもたちが待ちに待っていた魚のつかみどりが始まる。初めは戸惑っていた水の大使たちも、まわりの勢いによって、やがて一緒になって魚を追いかける姿が見られた。つかんだ魚は、希望者のみ下ごしらえをし、地元の子もたちと一緒に食べて比べをして、その後川でジャンプ遊び。続いて、紙すき体験を行った。ペットボトル内に4分の1程度の水を入れ、約1センチに切った紙の上のりを載つけたものを、ペットボトルに入れる。キャップをして、水と紙が混ざるように休みなく振る。先生に何度も何度も確認しては、振り続ける。やがて紙はとけて、水は白くにぎり先生のOKをもらいホッとする。決められた容器の中にごり水を流し込む。



魚のつかみどり

容器の下の受け皿に水分が落ち、浮かさせた容器には、白いかたまりがたまる。その白いかたまりを丁寧に取り除き、指定の場所に載つけて自然乾燥。後は時間の経過とともに紙となる。おやつの中にはとても冷えたスイカが出され、種飛ばし大会が始まった。その頃、第一小学校と水の大使の保護者が夕食会の準備を始める。待ちに待ったバーベキューが始まった。焼きそば、焼き肉、焼き野菜と焼きあがるにおいにつられ、子どもたちが集まり腹いっぱい食べた。やがて日がかげりキャンプファイヤーの始まり。「ヤッホー」と子どもたちが声を掛け合い、火の神が現れる。その神が火の子の4人に火を授け、組木に点火。またたく間に燃え、あたりは炎に包まれる。そのまわりを子どもたちと保護者が囲みひとつとなる。歌を歌い、フォークダンスが始まり、自然と互いに顔を合わせ笑い声が飛び交う。やがて、炎が小さくなり地元の川原湯温泉湯かけ太鼓が始まる。太鼓の音色に包まれ幻想的な世界に導かれ、誰ひとり話をするものはなく吸い込まれた。太鼓が終わるころには、キャンプファイヤーの内部はうっすらと赤く、まわりには真っ黒に焼けた灰が残っている。交流会も終盤で、双方の代表者のあいさつをもって、閉会となった。互いに別れを惜しみ帰りのバスまで地元の方々が見送ってくれた。そのまま、宿に戻り温泉につかり就寝。

この長野原町立第一小学校は、平成14年の2学期からダム水没の影響しない場所に移転して、授業を行っている。

3日目【歴史を知る】

朝食を済ませ、荷物をまとめ3日間お世話になった宿にお礼をした。木造校舎の復元施設を見学。実際に旧第一小学校で使用していた木材を再利用して建てられた。玄関、廊下、教室1部屋と規模は小さくなったものの、当時の空間を感じさせてくれる。子どもたちは席に着き手を挙げたり、オルガンを鳴らしたり好き勝手に教室で遊ぶ。壁に掛かっている時計を見て、保護者が子どもにグルグル回して動かすのよと説明する。この旧校舎の近くには、地元の有志が集まり炭づくりを行っている。ダムに沈むこのあたりの木々を何とか利用できないものかと考えた結果、炭づくりを思いついたようだ。窯を2つ造り、切られた木をほど良い長さに切って炭をつくっている。子どもたちも木を切り、窯の中に木を運び手伝いをした。お礼に出来上がった竹の炭をおみやげに頂いた。バスは一端、八ッ場ダム資料館である「やんば館」に向かった。駐車場に着くと、昨日一緒に遊んだ第一小学校の子どもたちが見送りに来てくれた。互いの連絡先を交換して再び別れを告げた。

ここで、長野原町から帰路に向かう。途中、浅間園にて火山博物館、鬼押出しの見晴台の見学をした。かつて噴火した浅間山の溶岩流は、長野原町へ流れ込み一部を壊滅させた。昼食後、バスに乗り込みビンゴゲーム大会をして、夕方千葉に無事到着した。

この交流会で、子どもたちは何を感じたのでしょうか？

何かを発見できたのでしょうか？

楽しい思い出とともにこの経験がどのように生まれ変わるのでしょうか？

参加した子どもたちは、夏休みの宿題と一緒にこの交流会について、作文を書いています。

参加者全員の作品が冊子になる予定です。楽しみに待ってみましょう！



長野原町立第一小学校

自然あふれた環境にある

軽費老人ホーム“よしきり”

「暑さに負けず、花火会」

今年の夏は、異常気象のためか、例年に比べ猛暑が続きました。テレビなどの報道では、熱中症になった人が沢山いたそうですが、“よしきり”の入所者は熱中症にならず、また、夏バテもせず、元気に過ごしています。

8月4日も暑さの厳しい日でしたが、午後7時から、老人ホームの庭を会場とした花火会を行いました。入所者はいくつかのグループとなり、和気あいあいとした雰囲気の中、童心に戻り、笑顔で花火を楽しみました。中には、危なくないところで、花火を手で回しながら楽しんだり、その姿を周りの入所者に見せている微笑ましい姿もありました。

花火会に参加した方の中には、「孫も大きくなり、久々に花火をした。」と話す方や、「子ども時代から、数十年振りに花火をした。」と感激された方もいました。最後に麦茶で喉を潤し、つかの間でしたが、暑さを忘れた一時でした。



大切な救急医療を守るために

印旛郡市では、内科・外科の救急に対応できるよう、印旛市郡医師会の協力で医療機関が当番を組み、24時間救急診療に当たっています。

初期
救急



症状・緊急度

二次
救急



三次
救急

比較的症状の軽い方

★休日応急診療所や当番医など

入院・手術を必要とする
重症の方

★救急告示病院などが輪番で担当

命にかかわる
特に症状の重たい方

★救命救急センター

詳しくは、印旛市郡医師会ホームページ (<http://www.chiba.med.or.jp/inba/>) をご覧ください。

なるべく医療機関の通常の
診療時間内に受診しましょう！

